

## あとがき

「環境問題の研究は、一般的な科学研究とは異なり、環境改善のための制度化に貢献するものでなければならない。たとえ環境に関する基礎的な研究であっても、その中に環境改善への示唆が含まれていることが望ましい」という共通理解の下で、COE 事業として実質4年間かけて行った中国の環境問題に関する研究成果のまとめが本書である。環境研究会のメンバー構成は、愛知大学関係者、愛知大学以外の日本人、中国人の3グループ各5名前後からなり、途中で多少の出入りはあったが、ほぼ同一メンバーで事業を進めてきた。そのためメンバー間の情報交換と相互理解が進み、かなりの成果を挙げることが出来たのではないかと自負している。現在中国社会は大転換の真最中であり、その中で環境問題も日々変化している。環境問題は「近代という宴の後の後始末」だと諦めることなく、本書を手がかりとして、環境問題の発生しないような社会の創出を目指して、中国の若い人たちが行動を起こすことを心から期待している。

なお、環境研究会の研究成果は、本書にまとめたもの以外にも多数ある。ICCS 活動全体にかかわる国際シンポジウム報告書などの印刷物を除くと、環境研究会独自でまとめた報告書類は以下のとおりである。

- ・ 榎根勇著『現代中国環境基礎論』（日文版 134 頁・中文版 113 頁）
- ・ 『中国における環境問題の現状』（日文 341 頁）
- ・ 『中国が進める循環経済と環境政策』（日文と中文を一部含む 307 頁）
- ・ 『中国環境問題的現状』（中文版 400 頁）
- ・ 『環境友好型社会構築のための中日学者対話会』（日文と中文 461 頁）

また環境研究会の研究成果は、ICCS 主催の国際シンポジウムおよび環境研究会以外では、以下のシンポジウムや会合で口頭発表された（主催団体・会合名・開催日・発表者名のみ、講演題目は省略）。

- ・ 総合地球環境学研究所「世界遺産シンポジウム」（2006. 11. 9）、朱安新
- ・ 海外環境協力センター「環境問題を日中で共有するための取組～環境共同体・東アジア地域を意識して～」（2006. 11. 14）、榎根勇
- ・ United Nations University & International Water Management Institute “International Conference on Water in the Humid Tropics” Kandy, Sri Lanka (2006. 12. 4)、榎根勇・吉野正敏
- ・ 愛知大学 ICCS・中国科学院地理科学与資源研究所「環境友好型社会構築のための日中学者対話会」（2006. 12. 15-16）、榎根勇・劉昌明・藤田佳久・吉野正敏・鄒驥・大澤正治・鄧南聖・田中重好・高玉葆・内嶋善兵衛・後藤尚弘・魯奇・柳下正治・宋献方・宮沢哲男
- ・ 愛知大学 ICCS・南京大学「環境圧力と中国社会転換—多学科領域の日中学者対話」（2006. 12. 18）、榎根勇・藤田佳久・宮沢哲男・田中重好・朱安新

2007 年 3 月

現代中国とアジア世界の人口生態環境問題研究会 主査  
榎根 勇